

What's /  
**ホテルスタンバイリーグさかい** (仮称)

Q ムービングハウスとは?

**快適な木造の家**

従来のトレーラーハウスやプレハブ住宅、仮設住宅と比べて桁違いの快適性を提案する、動く家「ムービングハウス」は、自然素材に包まれた居住空間が特徴です。

**被災地で活躍する応急仮設住宅**

移動式木造住宅「ムービングハウス」が、災害救助法にもとづく応急仮設住宅として採用されています。

平成30年7月の西日本豪雨の被災地・岡山県倉敷市では、災害ボランティアの活動拠点が求められていました。そこで、境町が協力し、ふるさと納税を活用したクラウドファンディングで資金を募り、ムービングハウス4棟を提供したことを機に、倉敷市に日本ではじめてムービングハウスによる移動型の応急仮設住宅団地が誕生しました。続いて9月に発生した北海道胆振東部地震の被災地でも、ムービングハウスは応急仮設住宅や仮設学生寮として活用されています。



平成30年7月、岡山県倉敷市にボランティア本部用として設置されたムービングハウス。境町がふるさと納税によるクラウドファンディングによって移動資金を募りました

Q いくらで宿泊できるの?

**1泊素泊まり(税別) 4,900円~(予定)**

※繁忙期などは値段が変動することがあります。

Voice



株式会社スタンバイリーグさかい  
代表取締役  
藤沼 昇二郎

**ビジネスや観光、企業の研修など  
様々な用途で利用してもらいたい**

境町にはこれまで宿泊施設が少なかったため、観光やビジネスで来た人が近隣市町村に泊まるケースが多々ありました。このホテルが完成することによって、来町された方の町における滞在時間が増加し、境町の魅力に触れる機会が増えればと思っています。日本で初めての災害防災拠点にもなる動くホテルですが、ホテルとしての機能は一般的なホテルと全く遜色ありません。ビジネスや観光、企業の研修などはもちろん、住民の皆さんも利用できることで、様々な方に宿泊してもらいたいと考えています。



境町防災アドバイザー  
立教大学大学院 21世紀  
社会デザイン研究科教授  
長坂 俊成

**多様性のあるムービングハウスの  
活用に今後も期待したい**

災害時の仮設住宅は入居が始まるまでに土地を見つけ、整地し、建設するまでに時間を要するうえ、入居期間後には取り壊します。ムービングハウスであれば、直ちに入居でき、その後も取り壊すことなく再利用が可能です。橋本町長が「災害時に日本全体で助け合う新たな仕組みを境町から発信し、地方の活性化や防災施策の推進につなげたい」とおっしゃるように、ムービングハウスを活用した施設が各地に整備され「社会的備蓄」につながる取り組みとなるよう、今後も期待したいです。



すぐに移動でき、設置できるため、被災地への迅速な対応を可能にします



12月3日(火)に行われた起工式。写真左から、(株)アーキビジョン 21 丹野正則社長、橋本正裕町長、(株)篠原工務店篠原純一社長

令和2年3月完成予定

**境古河 IC 周辺地区に  
全47室のホテルが4月オープン**

境古河 IC 周辺地区に、全47室を備え、新たな交流拠点となるようなホテルを移動式住宅「ムービングハウス」を活用し建設します。災害時には避難施設や被災地支援に活用します。

**民間委託先が20年で建設費を負担。町の持ち出し0円!**

**平常時はホテル + 災害時は被災地支援でも活用**

ムービングハウスを活用した「ホテルスタンバイリーグさかい」



木造2階の建物2棟に計47室を備え、海外アスリートに対応できるように大型ベッドを導入。障害者に配慮し、介助者と宿泊できる部屋も設置します。また、地域の交流行事などに活用できる食堂やセミナールームも設置予定

完成イメージ

**全国初! 日本ムービングハウス協会と災害時における  
応急仮設住宅の建設に関する協定を締結**

**自治体としての災害協定は全国初!  
災害発生時に応急仮設住宅を確保**

町では、これまで平成30年7月の西日本豪雨、9月の北海道胆振東部地震において「ムービングハウス」を被災地に送る支援を行ってきました。これらの経験を踏まえ、「ムービングハウス」を用いた移動型応急仮設住宅の社会的備蓄を目指す官民連携の取り組みとして、一般社団法人日本ムービングハウス協会と応急仮設住宅建設に関する協定を締結しました。今後、災害発生時において、迅速な応急仮設住宅の確保が可能となります。



12月3日(火)に行われた協定締結式。写真左から、(株)アーキビジョン 21 丹野正則社長、一般社団法人日本ムービングハウス協会 佐々木信博代表理事、橋本正裕町長、立教大学大学院 長坂俊成教授



岡山県倉敷市では、災害救助法における「応急仮設住宅団地」として認められた41戸を展開



基本ユニットの組み合わせによって、多様な間取りを構成することが可能

このホテルはムービングハウスと呼ばれ、移動可能な建設方法となっており、平常時は観光や体験交流などの宿泊施設として、東京2020オリンピック・パラリンピックの事前キャンプ中は、町がホストタウンを務めるアルゼンチン選手団の宿泊先として、災害時には被災者の受け入れ施設として、また、大規模災害時には、被災地へ送ることで、即座に応急仮設住宅として活用することが可能なシステムです。

近年では、全国で自然災害が大規模かつ多発化しており、これからの減災システムの一助となればと、立教大学等とともに設置運営するものです。

なお、建設費の半分は国の拠点整備交付金を活用し、残りの費用は、ホテルを運営するスタンバイリーグさかいからの賃料により、町の持ち出しはゼロという計画です。

**町の持ち出し0円!**

総工費約3億5000万円  
のうち50%は国の財源  
である地方創生拠点整備  
交付金、残り13.5%は  
交付税措置、36.5%は  
賃料で回収!

総工費	約3億5,000万円
国補助金	約1億7,500万円
交付税措置	約4,725万円
	※残りは賃料で回収

**利便性の高いIC周辺地区に  
全47室2階建てホテルを整備**

12月3日、圏央道境古河インターチェンジの隣接地において、新たに建設される「ホテルスタンバイリーグさかい」の起工式を開催しました。